

第63回愛知県総合教育センター研究発表会

テーマ「子供たちの可能性を引き出す『令和の日本型学校教育』の学びの在り方」

令和5年12月1日（金） 愛知県総合教育センター

第63回愛知県総合教育センター研究発表会を、「子供たちの可能性を引き出す『令和の日本型学校教育』の学びの在り方」というテーマの下開催した。当日はZoomを用いたオンライン開催、令和5年12月21日から令和6年1月31日までは、オンデマンドによる動画配信を行った。研究発表会当日のオンライン開催には約350名の参加者があり、オンデマンド動画の視聴回数は、延べ1546回となった。

以下に研究発表会の概要を紹介する。

1 開会行事次第

- ・開会のことば
- ・所長挨拶
- ・基調提案
- ・閉会のことば

2 研究発表・研究協議

次の研究について発表と協議を行った。なお、各研究の詳細い内容については、当センターウェブページ「研究紀要第113集（令和6年3月25日掲載予定）」を参照。

◇第1部会（高特）

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築に関する研究(COREハイスクール・ネットワーク構想)

【発表の概要】

「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築に関する研究（COREハイスクール・ネットワーク構想）」について、基調提案と研究協力校6校による実践事例（遠隔授業の実施、地域連携コンソーシアムの構築）の発表を行った。

基調提案では、中山間地域や半島先端部の高等学校において、ICTを活用した遠隔授業と地域連携コンソーシアムの構築を二つの柱とすることで、小規模校単独ではなし得ない特色・魅力ある教育に取り組むという研究の目的を確認し、そのための方法と研究内容について説明した。

事例発表では、当センターから配信する通年での遠隔授業（観察、実験を含む）【足助高校】、県立高等学校及び博物館等の校外施設から配信する遠隔授業【新城有教館高校作手校舎】、地域連携コンソーシアムのスタートアップと発展【加茂丘高校、田口高校】、地域の教育資源の活用と観光をテーマにした地域間の連携授業【内海高校、福江高校】というテーマでそれぞれ発表を行った。

研究協議では、遠隔授業の実施における留意点や支援教員の役割について具体的に話し合ったほか、学習評価や単位認定に係る質問に対し、現状の報告と今後の展望を提示した。

◇第2部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（商業））

【発表の概要】

「県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（商業））」について、研究の概要説明と研究員5名の実践発表を行った。

研究の概要説明では、これまでの研究成果を基に、「『主体的・対話的で深い学び』の視点から授業改善を目指した指導方法及び評価方法の研究の集大成としての実践を行う」という研究の目的を確認し、その方法や各校の取組内容について説明した。

研究発表では、題材のまとめり（以後、単元）を意識した学習指導案と単元を見通したワークシートを作成し、ワークシート内に「主体的に学習に取り組む態度」を評価する場面を設定した授業実践を行い、検証・考察した結果を発表した。また、新たな取組として「授業者・参観者・生徒で築くオープン化した授業と授業改善の一考察」を主題として研究し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教員同士が学び合い、学校全体で授業の質を向上させるための提案を行った。加えて、商業科が中心となって、校内をリードするPBL（Project Based Learning）を取り入れた教科横断的な授業実践を先行事例として報告し、新しい視点を共有した。

◇第3部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（家庭、看護、福祉））

【発表の概要】

「県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（家庭・看護・福祉））」について、「生徒の可能性を引き出す協働的な学びに関する研究」をテーマに、研究の趣旨説明の後、研究員4名の実践発表と教科ごとの研究協議を行った。

実践発表では、これまでの研究成果を基に、「主体的・対話的で深い学びの実現」のため、各教科の見方・考え方を働かせ、主に「主体的に学習に取り組む態度」の評価を見取るためのパフォーマンス課題の開発を通じた授業実践を発表した。さらに、生徒が主体的・協働的に学習に取り組むことができるようICT機器を効果的に活用した授業実践を発表した。

研究協議では、発表内容や各教科で設定したテーマ（家庭：実習の振り返り方法、看護：評価規準の提案、福祉：事例検討の振り返り方法）について意見交換を行った。

◇第4部会（小中高特）

新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

【発表の概要】

「新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究」について、基調提案と研究協力校7校の実践発表、代表委員によるパネルディスカッションを行った。

基調提案ではこれまでの研究から、新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方と「指導と評価の一体化」について確認した。

実践発表では、効果的な「指導と評価の一体化」の方法に迫るため、「授業マネジメントシート」の開発・実践と改善についての取組と、観点別学習状況の評価の観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための手だての一つとして、授業の振り返り活動に焦点を当てた実践を報告した。

パネルディスカッションでは、①授業改善につながったと感じる点、②教員の形成的な評価及び総括的な評価、児童・生徒の自己評価に関する意識や変容、③学校全体で取り組む雰囲気づくり（負担感や抵抗感もある中で）の三点について研究員の先生方の思いや本音を引き出しながら、意見交換を行った。

◇第5部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（地理歴史、公民）

【発表の概要】

「県立高等学校教育課程課題研究（地理歴史、公民）」について、「生徒の学びを深める授業の実践と評価方法の検討」という研究テーマについて、基調提案と研究員7名の研究発表、質疑応答を行った。

基調提案では、生徒の思考を活性化させる問いを設定し、深い学びを促すとともに、評価することが目的とならないように、単元指導の中で「どの場面で、どの観点を、どのように評価するのがよいか」を探ることを重点項目としたことを説明した。また「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、日々の記録で見取ったことを数値化して評定に結び付けることにこだわらず、生徒の学習成果を踏まえ、指導を改善し、生徒がどのように変容したのかをはかるP D C Aサイクルを意識したことを確認した。

研究発表では、科目別に7名の研究員が、授業と評価の実践について発表した。

質疑応答では、「A評価が多いが、どのような工夫がされているのか」という質問に対して、「グループワークが学習課題の問いと一致していることが理由である。グループワークが、問いに対する答えが分からない生徒にとってヒントを得る機会となっているため、A評価が多くなったと考えられる」と研究員が回答した。

◇第6部会（小中高特）

情報教育の充実に関する研究（ICT授業活用に関する研究）

【発表の概要】

「情報教育の充実に関する研究（ICT授業活用に関する研究）」について、基調提案と研究協力員6名の実践発表、研究員による全体会を行った。

基調提案では、2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」において、子供たちを支える伴走者である教師が、ICTを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業をデザインすることが求められることを確認し、それを実現するための方法と研究内容等について説明した。

実践発表では、学習者中心の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、さまざまな学習場面においてICTを効果的に利活用した各校の授業実践を発表した。

研究員による全体会では、各校種でのICTを授業で活用するポイントや注意点、学校全体でICTの活用を推進するためのポイントや苦勞した点について、パネルで示しながら発表した。活用ポイントとしては、ICTを特別なものとして捉えるのではなく、学びを進めるツールとしての活用を考えて授業デザインすることや、目的を明確にもち、考え方の幅を広げたり深めたりするために効果的に使用することが大切であることなどが挙げられた。